

国際交流協会ニュース

— Ichihara International Association —

2022年11月20日 発行 市原市国際交流協会
〒290-8501 市原市国分寺台中央1-1-1 市原市役所 人権・国際課内
TEL 0436-23-9866 FAX 0436-21-0332
e-mail: iia@city.ichihara.lg.jp
ホームページアドレス <https://iia-ichihara.org/>

そうりつ しゅうねん きねんとくしゅうごう
創立30周年記念特集号



いちはら し しくさいこうりゅうかいしゅう
市原市国際交流協会賞
なかにし まいご か わか ほしろう ねん
中西 恭花 若葉小 1年



いちはら し しくさいこうりゅうかいしゅう
市原市国際交流協会会長賞
なら すでら しどうちゅう
奈良 星照 市東中 1年



そうりつ しゅうねん きねん がっこうしゅう
創立30周年記念 学校表彰
ご いしゅうにほんご せうじつ
五井小日本語教室



お祝いのことば

市原市長 小出謙二

この度、市原市国際交流協会が創立30周年を迎えられましたことを、心からお祝いを申し上げます。

貴協会におかれましては、平成3年の創立以来、モバイル市との姉妹都市青少年派遣・受入事業をはじめとする本市の国際交流の推進に多大なる御尽力をいただいております。

また、市内の外国人市民は6,000人を超え、外国人市民が日常生活に不自由なく、安心して生活できる環境整備が今まで以上に求められている中、新型コロナウイルス感染症の感染防止を図り、「日本語教室」や「外国人児童・生徒への学習教室」等、外国人市民に日本語を学習する機会を提供していただいております。

このように、外国人市民と市民の共生社会の実現に向けて、真摯に取り組んでいただいておりますことに、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

市原市は「SDGs 未来都市」として、誰もが差別なく、平等に暮らす社会を実現するため、「国籍や文化の違いを認め合い、誰もが元気に暮らせるまち」を基本理念として、様々な事業を推進しております。

今後も、山崎会長をはじめ、市原市国際交流協会の皆様には、外国人市民や本市を訪れる外国人との交流、多文化共生社会の実現のため、引き続き御支援、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、市原市国際交流協会の更なる御発展と、皆様の御活躍を心からお祈りし、お祝いの言葉といたします。



創立30周年を迎えて

市原市国際交流協会
会長 山崎 正夫

私たちの協会は、1991年（平成3年）の11月に当時の市原市海外交友会の会、市原

市民日中友好推進協議会、市原・パパクラ交友会の三団体を核として生誕しました。そして30年の歳月。市当局の暖かいご支援と多くの市民ボランティアの力強い協力で、協会の目指す山頂の「幅広い国際交流」や「多文化共生の市民社会の構築」等を目指

して、組織一丸となって取り組んだ年月でした。思い出すままに、実施事業を振り返れば、古くは、日本語指導教室市内開設、姉妹都市・モバイル市との日米青少年交流事業や日米子どもテレビ電話交流会、外国籍市民の子弟を対象のサマースクール実施、最近では、オリパラのホームタウンを契機に始まったN Zとの交流など枚挙にいとまがありません。

しかし、昨今の地球的規模で発生する自然環境変化や第一次世界大戦後の国連中心の政治経済環境変化を直視すると、これからの我々の前途は順風満帆どころか、逆風に晒される事があるかもしれません。しかし、混沌とした社会に陥るほど協会が挑む山頂は私たちの希望になって輝くはずですよ。これまでの協会30年の活動に自信と誇りを持って、一步一步前進することです。共に頑張らしましょう。最後になりましたが、今日まで私たちをご支援下さった小出市原市長はじめ関係各位に感謝し、今後も変わらぬご指導をお願いしてご挨拶とします。



Congratulation on IIA 30th Anniversary!

Mobile Ichihara Sister City Association (MISCA) sends you the warmest of greetings on this occasion. Congratulations on your thirty years! This is a major accomplishment. The Ichihara International Association (IIA) has done a masterful job of hosting many Mobilians in Ichihara and sending many wonderful people here to experience all Mobile has to offer for all these years. We are thankful for you. MISCA has enjoyed working with IIA and is looking forward to working together for many more years to come. Our essential work of sharing our culture, our cities, and our friendship must continue surely for decades to come!



On behalf of MISCA, it is my honor to invite the members of the IIA to come experience the Festival of Flowers, which will be held March 23-26, 2023, in Mobile. Japan is the upcoming theme for this much adored annual event in the southeastern United States! Also, we would like to extend an invitation to participate in another Spring event called the Azalea Trail Run, which will take place on March 25, 2023. This race has been run for forty-four years in Mobile. Please join us for the Spring fun.

Best Regards,

国際交流協会の歩み

1991年 (H3) 11月7日 市原市国際交流協会創立 市原市海外
交流友の会、市原市民日中友好推進協議会、市原パクラ交友
会の3団体を核として設立 初代会長に相川久雄氏就任

1992年 (H4) 善意通訳登録制度開始

1993年 (H5) 10月日本語教室開設、11月10日米国アラバマ州モ
ビール市と姉妹都市締結、ホストファミリー登録制度開始

1994年 (H6) 3月国際交流協会ニュース創刊、7月姉妹都市
モビール青少年受け入れ・派遣事業開始 後隔年実施

1995年 (H7) 1月第1回国際交流パーティ、6月県民祭りに出席
参加

1997年 (H9) 4月2代目会長に小宮徳次郎氏就任
市原市ロータリークラブ、ライオンズクラブ、(財)市原市体育
協会、(財)ラボ国際交流センターなど、団体会員、個人会員
の参加と共に5部会設置(総務部会、日本語教室部会、研修
部会、交流部会、姉妹都市部会)

1998年 (H10) ふれあいサロン青葉台開設

1999年 (H11) 3月姉妹都市締結5周年記念モビールアザレア
マラソンに市民ランナー市民応援団派遣

2000年 (H12) 7月モビール市シルバークエスト四重奏団来市7
カ国語の会員募集案内作成

2001年 (H13) 11月市原市国際交流協会創立10周年記念パーティ
&フェスティバル開催

2002年 (H14) 2月姉妹都市モビール友好親善市民訪問

2003年 (H15) 4月日本語教室の水曜夜開設、11月ふれあいサ
ロン光風台開設外国語サロン(中国・スペイン語)開設モビ
ール市姉妹都市締結10周年記念「モビールフィエスタ」

2004年 (H16) 9月市原市国際交流センター開設、在住児童生
徒のための学習教室開設、10月「広報いちほら」中国語翻
訳・スペイン語翻訳サロン、スペイン語サロン開設、11月姉妹
都市締結10周年記念碑建立除幕式にモビール市長ダウ氏、議
員、姉妹都市協会来市、第1回市原市国際交流フェスティ
バル開催(以後毎年開催)

2005年 (H17) 4月市原市国際交流センター移転(市民活動セ
ンター) 9月協会ホームページ開設

2006年 (H18) 姉妹都市モビール友好親善市民訪問、10月市民
活動センター正式オープン

2007年 (H19) 3月市川市国際交流協会と情報交換会、10月iほ
つと祭り参加

2008年 (H20) 4月姉崎に日本語教室開設、5月姉妹都市15周
年記念姉妹都市モビール友好親善市民訪問、7月モビール市
長一行来市

2009年 (H21) 5月第3代会長 山中 齋氏就任、賛助会員募
集開始、規約改正で文言に国際協力、多文化共生が加わる、
10月国際交流の集い、新型インフルエンザによりフェスティバ
ル中止

2010年 (H22) 2月姉妹都市モビール活動紹介展示(五井イト
ーカ堂)

2011年 (H23) 1月白金子ども日本語教室開設、7月日本語を
母語としない子どものための「サバイバル日本語講座in市原」
以後サマースクールとして毎年開催、8月モビール市姉妹都
市協会より東日本大震災義援金とどく、10月創立20周年記念
姉妹都市モビール友好親善市民訪問、上総いちほら国府祭り
参加(以後毎年参加)11月市原市国際交流フェスティバル
(創立20周年記念)市民活動フェスタin市原に参加

2012年 (H24) 1月市原市国際交流パーティ(創立20周年) 6
月国際交流ひろば(以後毎年開催) 9月「日本語学習支援養
成講座」、11月iほつと祭り参加

2013年 (H25) 6月講演会、7月善意通訳者のためのセミナー、
9月茂原市国際交流協会と情報交換会、12月姉妹都市締結20
周年モビール市より代表団来市

2014年 (H26) 10月上総いちほら国府祭りにオフィシャルブ
ース
出展

2015年 (H27) 5月第4代会長に山崎正夫氏就任

2016年 (H28) 7月創立25周年記念式典・パーティ、モビ
ール市青少年訪問団歓迎レセプション(パーティとフェスティバルを
隔年で実施)11月市原市国際交流コンサート、10月日本語学
習支援ボランティア養成講座開催

2017年 (H29) 5月国際交流センター市原サンプラザに移転
6月講演会

2018年 (H30) 6月講演会

2019年 (H31, R1) 2月市原市国際交流協会パーティ、みんな
で盛り上げるオリパラ「ニュージーランドホストタウン市原」

2020年 (R2) 4月VONDS市原団体会員に(新型コロナウイルス感
染拡大の)フェスティバル、パーティは中止)

2021年 (R3) 11月姉妹都市部会モビールとオンライン交流会

2022年 (R4) 1月やさしい国際理解セミナーzoom、6月講演
会、10月国際交流ひろば



30年の



10周年記念パーティー & フェスティバル 2001年



海外交流友の会 2001年



グランドゴルフ大会 2002年



2005年 姉妹都市モビールと青少年交流



ふれあいサロン青葉台 2005年



市民活動センターOPEN 2006年



日本語教室 2006年



思い出



モバイル青少年受け入れ 2008年



日本語教室クリスマス 2007年



モバイル青少年市民祭り参加 2008年



食を通して文化を知る-韓国 2009年



国際交流フェスティバル 2011年



上総国府祭り参加 2014年



国際交流ひろば 2015年



モバイル訪問 2017年



いち ほん し こく さい こう りゅう きょう かい そう りつ しゅう ねん 市原市国際交流協会 創立30周年

もといちはら し しみんゆうこうすいしんきょう ぎ かい
元市原市民友好推進協議会
おがわ さぶろう
小川 三郎



協会創立30周年記念誌におめでとうござい
ます。今日に至る迄モバイル市との姉妹都市交流活動も積極的に展開され、多大の実績と貢献をされました。又、市内在住外国人との交歓交流事業や市内各所で各種教室を開催され多くの市民参加による成果も挙げられました。私達も中
国との市民友好交流を目的に30回中国各地を訪問し延べ900人以上のご参加を得て多くの収穫を得ました。今後とも協会活動のさらなる継続と次世代を担う青少年の国際交流の舵取りとなれます事を期待いたします。

パパクラ市との交流を振り返って 市原キーウィクラブ会長 向井 捷洋

創立30周年おめでとうございます。市原市とニュージーランド・パパクラ市(現オークランド市の一部)と交流を続けた民間グループに「市原・パパクラ交友会(IPA市原)」があります。現在は役員の高齢化もあってIPAとしての活動を大規模に行うことが困難になって2014年「市原キーウィクラブ」に名称を変え、パパクラとの交流を行っています。以来、「市原キーウィクラブ」は旧パパクラ市の「IPAパパクラ」(会長:ホーキンス夫妻)との交流窓口になっています。

IPA市原とパパクラの交流が始まったのは1986年にさかのぼります。

この年、市原市議会の視察団がパパクラ市を訪問、当時のパパクラ市長ジョー

ジ・ホーキンス氏との間で、市原市がパパクラ市民のホームステイ受け入れが決まりました。翌1987年7月6日~11日、パパクラ市から123名が市原市を訪れ、111家庭にホームステイしました。かくして市原市とパパクラ市との国際交流が幕を開けました。



IIA副会長 久保 和子

石の上にも30年! 当時ススキと虫の音に満ちた国分寺台へ越してから40年弱。

ひよんなことから国際交流とかかわり30年余り。市原市国際交流協会(IIA)創立とか姉妹都市締結の事など忘れがたい。

1991年IIAという大組織創立のため会議では皆が思った事をバンバン発言。会長はそれに対してビシビシ応答。私如きヒヨッコは片隅で小さくなって震えて見ているだけ。会議とは恐々参加するものだった。1993年米国アラバマ州モバイル市と姉妹都市締結。前年に親善訪問団が派遣され、翌年モバイル市からダウ市長一団が来市。市原・モバイルという単語が飛び交う中で一団のお手伝いしながら、姉妹都市交流は何か未来への希望・夢を与えてくれるような気がしてならなかった。1997年5部会が設置されIIAは強化拡大していった。市民、役所の方々に助けられ、IIAは共に歩んだ戦友だ。

たかなし てる こ 高梨 光子

IIAでの活動はおよそ28年前、当時の交流部主催事業への参加、そして姉妹都市青少年第1期生の受け入れを機に始まった。交流部で数年、その後、日本語教室で日本語学習支援ボランティアとして23

年間活動、現在に至っている。グローバル化の加速と共に日本語教室も多様化し、様々な国の学習者との出会いがあった。日本語を学ぶ「場」である教室は又、国、民族、宗教を超え、人々が交流する「場」でもある。ボランティア活動を通して交流の大切さを学び、貴重な経験をさせていただいた。

IIAの活動に一人でも多く関心を持っていただくことを願うばかりである。長引くパンデミック、戦争がノーマルという時代、ディストピアもますます現実味を帯びてきている。

誰もが平和を願い、戦争は「悪」であるとかわっているにもかかわらず戦争は続く。このような時代にあって、ささやかではあるが、日々の活動が平和な社会構築の一助となれば幸いである。

しばた ふじお 柴田 富士夫

2008年(平成20年)2月人権国際課主催の日本語指導の講習会が終わり、市原警察署のとなりであったボウリング場の中の和食店で松本先生をはじめ講習会に参加した人と皆で打ち上げを行った。これが私の国際交流協会との馴初めでした。参加された方は約30名でした。以来、人権国際課の湯本さんの勧めもあり「土曜日のアミーゴの会」に暫く出、やがて日本語の五井教室に入り「やさしい日本語」の手ほどきを受けた。何といっても私は素人、皆は玄人その間に入り苦しめられた。一方、私は海外生活が長く市原市のことは何も知らなかった。そこでボランティア活動を始めた。米国ミシガンから戻った2005年からの事である。緑のおばさんから始まりあらゆる事に手を出した。市原がどんな所か判った気がする。気が付いてみれば私の家族は40年近く市原に住んでいる。子供たちは早くも子供

お祝いメッセージ

を持ち最年長は大学を出る年となる。私は同輩が世を去るのをきっかけにボランティア活動に終止符を打とうと社共の送迎ボランティアを最後に止める事にした。しかし、運が良いのか悪いのか昨年来、

脳梗塞にかかりリハビリ中である。これで、あと10年は生きられると新たな人生を考えたと胸がわくわくする。周りが許せば、国際交流協会は続ようと思ってい



左から4人目が本人

現在の日本語教室は千葉県国際交流協会主催の日本語教授ボランティア養成講座に参加した7人で「大きな木」として「市内在住の外国人に役立つ日本語を！」とのスローガンで、当時の小出善三郎市長、文化国際課の応援で1993年7月に立ち上げました。

1993年11月、市原市制施行30周年記念式典で、モビール市との姉妹都市交流がはじまり、市原市国際交流協会が誕生し、日本語部会として新たに出発することになりました。日本語を教えながら、いろいろな国の方々とかわり。お互いの文化交流-食事、踊り、習慣などをクッキング、お茶会、クリスマスパーティ、イベントなどで、一緒に楽しい思い出をたくさん作ることができました。

また、姉妹都市モビールに主人と共に、市原を訪れたことのある友人を訪ね、友人の家に10日間ホームステイ、モビール市議会や議長、市議会議員さんたちとの再会を喜びあい、パーティでもたくさん

友人ができました。現在は3人の孫 {2歳半、7か月} のヘルプで横浜に行くことが多いため、日本語指導は休止していますが、多文化共生の時代、また復帰すると思います。

「Think Globally Act Locally!」(地球規模で考え、足もとから行動せよ)これが私のモットーですから!

須山 信久

「市原市国際交流協会」が産声をあげて以来30年が経ちました。国際都市として仲間入りし、又、市原市民の期待をおつ活躍して来ました。「異文化交流」「多文化共生」と大きな役割を果たしてきました。一見すると、派手に見えますが、市職員の方々の努力と緻密な企画のお陰です。各国の人達との「パーティ」、「食文化を通じての交流」、「スポーツ交流」、「民族舞踊」、そして「講習会」、等々。我々に感銘を与えてくれます。

今後内外の人達のスポットライトを浴び続けたる「市原市国際交流協会」で有って欲しいです。

岡本 三千恵

市原市国際交流協会創立30周年おめでとうございます。学生の頃に縁あってから、10年以上お世話になっています。交換交流の学生の一人として姉妹都市

に行かせて頂いたり、ボランティアの方達と様々なイベントのお手伝いをさせて頂いた事など思い出が沢山あります。

コロナ前は小さな子供から大人まで楽しめるイベントが定期的に開催されていたので、次回開催時には、娘達とぜひ参加したいです。コロナに負けず、これからの国際交流活動も楽しみにしています。

小林 真法

浄土真宗本願寺派弘教寺副住職



市原市国際交流協会創立30周年おめでとうございます。今年度よりお世話になっている姉妹都市小林です。普段は姉崎

の浄土真宗のお寺で働いています。掲示を見たのがきっかけで姉崎教室にて日本語指導を始めました。大学時代日本語教師の資格を取りましたが、今回初めての指導です。小久保様始め皆様に支えられ頑張っています。市原市で日本語教育を通じ貢献したいと思います。慣れぬ事も多々あるかと思いますが宜しくお願ひ申し上げます。



市原市国際交流協会創立30周年記念ポスター・作文コンクール表彰

ポスターの部

- 市原市国際交流協会賞 中西 恭花 (若葉小学校1年)
- 市原市国際交流協会会長賞 奈良 星照 (市東中学校1年)
- 創立30周年記念 学校表彰 五井小学校日本語教室

作文の部

- 市原市国際交流協会賞 すずき ののか うしく (牛久小学校6年)
- 市原市国際交流協会会長賞 つみた 希果 (さんわちがっこう3年)
- 創立30周年記念 学校表彰 積田 かりん (三和中学校3年)
- 小林 凛乃 (若宮小学校3年)

敬称略

ウクライナの子どもの 為の支援 運営委員会

22・6・18

ウクライナの戦火にあった人たちの為
に何かできないかと運営委員会で提案が
あり、初めての街頭募金を6月18日に実
施しました。場所はアリオの更級公園口
からツタヤ書店脇の公道、ウクライナと
いう国の紹介と協会の紹介チラシを配り
呼びかけました。

当初は悪戦苦闘しましたが、親子連れ
や学生さん大人の方も「少しでも」と
徐々に募金箱も重くなりホッとしました。
日本語部会の生徒さん始め各部会や運営
委員の皆様の募金を合わせて55,133円を
ウクライナの子どもの為に名目を
決めてユニセフを通して寄付を致しまし
た。ご協力ありがとうございました。



I.I.A-MISCAリモート交流会 姉妹都市部会

22・9・11

第3回目となったIIA姉妹都市部会と
MISCAとのZOOMによるリモート交流会
は日本時間9月11日9am、モバイル時間
9月10日7pmにIIA9名、MISCA5名が
参加して行われた。当日の新規参加者は

IIAが相場さん、MISCAからTapiaさんで
あった。今回は小林さんが誕生、七五
三、成人式、還暦等日本人の通過儀礼に
ついて紹介、日本人が人生のそれぞれの
場面でのどのような内容の儀式を行うか説
明した。アメリカではカトリックの間で行
われる洗礼がお宮参りに該当し、50歳を
迎えたときに行うオーバーザヒルパー
ティが還暦に似通ったものとしてあると
のモバイル側からのコメント。

ついで相場さんから市原には3-8世



紀の間に作られた1,500以上の古墳が存
在、円墳、前方後円墳等の形状があり、
剣、装飾品等様々な物が収められている
ことを個々の古墳を図、写真で示しなが
ら紹介。これに対しMISCA側からアラバ
マにも古墳があるとの発言。ネーティブ
インディアンのもので11-16世紀建造。小
林さんから北米でも埴輪が発見されてい
るという発言もあった。

最後にMISCAから11月に3年振りにモ
ビールで開催されるインターナショナル
フェスティバルについてプレゼン。4日
間モバイル在住の70ヶ国が参加するもの
で、各国のブースが設けられ、1日でパ
スポート無しで世界中の料理が楽しめ、
それぞれの日が小、中、高、一般に振り
分けられ、全市民参加型の一大イベント
のようだ。今回も話題続出、楽しいイベ
ントだった。

第12回サマースクール実施報告 22・8・6

サマースクールは、日本語を母語とし
ない小中学生を対象として、夏休みの宿
題と、学科の問題を解決するための学習
会です。

2022年度のサマースクールは、第12回
目で、8月6日の土曜日に、市原青少年
会館で開催されました。今回も昨年に続
き、「新型コロナウイルス感染拡大中（第
7波）」の為開催が懸念されましたが、
フィジカルディスタンスの確保、マスク
の着用、換気の徹底、体温の測定等の感
染防止対策を徹底しながら開催すること
にしました。生徒はAクラス（小学1~3
年生）6名、Bクラス（小学4~6年生）
2名、Cクラス（中学生以上）5名、合計
13名が参加しました。参加した生徒さん
の出身国を調べてみると、フィリピン5
名、中国5名、モンゴル2名、ネパール

1名でした。スタート時間は少し遅れま
したが生徒さんが持参した夏休みの宿題
や、ドリルを熱心に勉強しました。不足
したテキストなどを家に取りに戻って
くれたお母さんもありました。勉強の
内容については、本人の希望や、お母さん
の依頼を受けて、経験豊富な先生が基礎
から教えて下さいました。中身の濃い2
時間の勉強が終了した後に、それぞれの皆
さんに、満足の笑顔がありました。

今回も感染防止の為会食を避け、子供
向けに調味して頂いた「特製 チキン
キーマカレー弁当」を帰宅後食べました。
コロナウイルス感染拡大中にもかかわらず、
参加してくれた生徒さん、教育指導
の為に参加して頂いたボランティアの皆
様、支援して頂きました皆さんの皆様
の力が結集して、無事終了することがで

きた12回目のサマースクールでした。今
回のサマースクール後に又新しい絆が生
まれました。有難うございました。

